

(電子メール施行)
農 技 第 1 4 4 8 号
令 和 4 年 8 月 2 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察技術情報 第1号を発表します。

明石市内のサクラの木や神戸市内でクビアカツヤカミキリが発見されました。特定外来生物であるクビアカツヤカミキリが県内で確認されたのは初めてで、7月17日までに雌雄あわせて計9頭が確認されています。さらに、明石市内の発見場所から約30km離れた芦屋市内のサクラ2本から得られたフラス(幼虫のフンにあたる木くず)が、PCR検査でクビアカツヤカミキリのもものと確認されました。現在のところ県内の果樹園での発生は確認されていませんが、県内での定着が疑われている状況であり、今後、発生の拡大や農業被害が懸念されますので警戒をお願いします。

令和4年度 病虫害発生予察技術情報 第1号 クビアカツヤカミキリの果樹園への侵入警戒について

- 1 対象作物 モモ、ウメ、スモモ等バラ科果樹
- 2 害虫名 クビアカツヤカミキリ
- 3 クビアカツヤカミキリについて
 - (1) 国内では平成24年に愛知県で初めて発見されて以来、埼玉県、徳島県、大阪府、群馬県、東京都、栃木県、奈良県、和歌山県、茨城県、三重県、神奈川県、12都府県で発生が確認されている。
 - (2) 発生地では公園等のサクラやウメなどで幼虫の食害による枯死被害が大きく、一部の府県では果樹園のモモ、スモモ、ウメ等で被害が出ている。
 - (3) 本県では、6月27日に明石市の公園において雄成虫3頭が初確認され、その後、神戸市も含め7月17日までに雌雄あわせて計9頭が確認された。さらに、芦屋市内の桜並木の2本から発見されたフラスが、PCR検査でクビアカツヤカミキリのもものと確認されている。
 - (4) 本県で初確認されたことを踏まえ、7月1日から病虫害防除所・農業改良普及センターが県内のモモ、ウメ等の果樹園で発生調査(25園地、約3,800本調査)を実施したところ、現時点で疑わしい園地はない。
- 4 本種の特徴について
 - (1) 成虫は全体に光沢のある黒色で、前胸部(クビ)が赤く、体長は2.5~4cmで、

触角が長い(雌に比べ雄の触角が特に長い)。

- (2) 成虫は6月～8月に活動し、幹や樹皮の割れ目に1,000個近くの卵を産む。
- (3) 幼虫は、サクラ・ウメ・モモ・スモモ等の主にバラ科の樹木を加害する。樹幹の内部を摂食しながら2～3年かけて成長し、蛹を経て6月中旬～8月上旬に成虫となり、樹の外へ脱出する。
- (4) 幼虫が入り込んだ樹幹からは、ひき肉状につながったフラスが排出される。加害された樹幹は内部が空洞となり、樹勢が低下して枯死することがある。

5 防除対策について

- (1) 特定外来生物法により、本種は生きてそのまま持ち運ぶことは禁止されている。成虫を発見した場合は、その場で直ちに捕殺するとともに、病害虫防除所または農業改良普及センターに連絡する。念のため、死骸を保管もしくは写真を撮っておく。
- (2) 被害樹は、株元から1～2m程度の高さまで4mm目合いのネットを巻き付けて、羽化した成虫の分散を防止する。この際、樹木とネットを密着させると食い破ってしまうため、きつく巻きすぎずある程度余裕を持たせることが重要である。
- (3) 樹木の被害がみられる場合は、殺虫剤を食入孔から樹幹に注入して樹木内部の幼虫を駆除する。老齢幼虫には殺虫剤の効果が劣ることがあるため、針金などで食入孔からフラスをかき出し、食入孔にノズルを差し込んで殺虫剤を噴射すると高い効果が得られる。
- (4) 被害が大きい樹木は、樹木内の幼虫を完全に防除することが困難なため伐採する。伐採された樹木内でも幼虫は成長するため、伐採樹は速やかに処分する。
- (5) 散布剤は、成虫防除を目的とするため、成虫が活動する6月～8月に、登録内容に従い、樹冠全面または樹幹部に散布する。被害が大きい樹木付近の樹木は重点的に防除する。
- (6) 薬剤散布を行う場合、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を遵守する。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

***この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。**

(<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222



写真 クビアカツヤカミキリ成虫（左）とフラス（右）